

発行 日本共産党南知多支部



連絡先
〒470-3321 南知多町
内海内塩田77-3
(南知多町議会議員)
内田 保
電話 0569-62-1816
携帯 090-2776-7529

内田たもつだより

内田たもつ ホームページ
http://uchida-tamotsu.jimdo.com



日本共産党発行
うんしん 赤旗
日刊 3497円
日曜版 930円

町の公共施設を半分に!?

町公共施設再配置計画検討委員会

1月24日、第1回の公共施設再配置計画検討委員会が開かれました。検討委員会は名古屋大学小松教授(環境学研究所)を委員長に、委員10名を選出。さらに業務の推進事務局にプロポーサル方式により選考された業者が承認されました。傍聴した読者からの投稿と寄せられた町民の声を紹介します。

再配置検討委員会の役割

この検討委員会は、昨年より進められてきた「公共施設の再配置検討委員会」の取組に沿って「南知多町公共施設再配置計画(案)」を決定する役割を持ちます。

南知多町は、1961(昭和36)年6月に当時の内海町、豊浜町、師崎町、篠島村、日間賀島村の5ヶ町村合併により誕生。以来今日に至っていますが、当時の町村が基本形態になっています。それぞれの町にそれぞれの公共施設を整備した経過があります。

今回のこの再配置計画は、合併当時人口は、29654人、2045年には8790人に減少すると、同時に財政規模も縮小し、公共施設もこれに比例させ現在の50%減にするという計画を作ろうとしています。



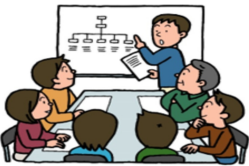
内海サービスセンター

町民多数の意見反映は不十分

昨年8月から、「公共施設に関する町民アンケート」が2000人に対して無作為に行われました。続けて、スポーツ・文化・PTA・保育所保護者会などの団体、また地域代表として区長やまちづくり協議会、自主防災会などの代表者からヒアリング(紙面調査)が行われました。

10月には、地区別説明会・意見交換会が①半島側(11名参加)②日間賀島(12名参加)③篠島(10名参加)で行われてきました。10月29日の町民討議会には8人の参加で、公共施設を50%に減らす検討も行われました。

アンケートは642件、他の会合も代表者による意見で、いずれの参加者も町民の大多数の意見反映には、まだまだ不十分と言わなければなりません。



教育・子育て・医療に強い要望

医療に強い要望

いま町民の要望は、学校・子育て支援施設・医療施設・行政施設(地域の拠点)などに集約されているように思います。再配置計画は、このような町民の日常生活を守り支える(支援する)公共施設でなければなりません。

特に、町は第7次総合計画を推進している最中で「暮らし続けられるまちをあなたとつくる」(基本理念)「子育て支援と教育の充実」「産業の活性化と雇用の確保」「定住支援」(重点政策)に基づく主要事業)からみて、この公共施設の再配置は、廃止やスクラップを意味するものではないでしょうか。

急激な過疎化を防止し暮らし続けられる町づくりを

最近の南知多町は、空き家と共に人口が減少、日用品を販売するスーパー(豊浜)は閉鎖し、買い物すらままにならない町に変わってきました。

町が掲げる『基本理念』に沿って公共施設も、検討するべきではないでしょうか。公共施設の統廃合(再配置)は住民の要望が強いサービスセンターなどは(合併時の考えを生かし)残り、他の施設についても住民の要望を、第一に進めるべきです。同時に関連する保育や医療、通学・通院等を考慮して、町民の足を守る交通手段(海っ子バス等)を確保して行くことも重要です。

生鮮食品・日用品など生活必需品が整う町に

「各地区にスーパーのようなお店あってほしい」
肉や魚、野菜などと生活必需品が買える店がなくなり、生活に困っています。暮らし続けられる町にするなら、町ももう少し関わって、町民が暮らしやすい町にすべきです。(豊浜在住)

町民の皆さんからの声

「移動販売車に来てほしい」
週に1,2回、スーパーにあるような品物を、車に乗せてきて、販売してほしい。注文とって、持ってきてくれる方法もいいと思う。(豊浜在住)



「送り迎えのタクシーがあるといい」
免許を返納したので、車で出かけられなくなった。買い物など、時間や用事の内容に合わせて、自分の家に来てくれて、目的地に行き、送ってくれる、そんな手軽なタクシー制度ができるといい。(内海在住)

「(川柳コーナー) 夕食の材料買える店がない」
各地域にあったスーパーがなくなり、住民は悲鳴を上げています。1人暮らしの高齢者はもちろんですが、子どもを抱えた家族も大変です。住民任せでなく、暮らし続けられる町にするなら、こういう問題にも、手を差し伸べてほしい。